女性医師支援センター便り

令和元年度 医学生・研修医支援セミナーの開催

宮城県医師会常任理事
宮城県医師会女性医師支援センター委員
福　與　なおみ

宮城県医師会女性医師支援センターの事業の一環として，医学生や研修医を主な対象とした支援セミナーを年１回開催しています。

令和となって初めてのセミナーは，６月12日（水）に東北大学星陵会館で行われました。

当センター委員の藤原実名美先生の司会で会は進められ，はじめにセンター長である髙橋克子先生のご挨拶がありました。

セミナーの構成は例年どおり，特別講演に引き続くシンポジウムの形でした。

特別講演は，東北大学病院医療安全推進室・東北大学病院卒後研修センターの田畑雅央先生に，現行の（新）専門医制度についてご講演いただきました。これまでのカリキュラム制からプログラム制に変わったことによる注意点，専門医研修を効率よく行うためには，初期研修の内から意識して幅広い分野の症例を経験しておく必要性とその理由などが話され，医学生も初期研修医も熱心に聞いていました。講演終了後には，ライフイベントに伴うプログラムの変更の可否等をメインに活発な質疑応答がなされました。

田畑雅央先生

シンポジウムは，宮城県立こども病院脳神経外科の君和田友美先生，東北大学病院精神科の菊地紗耶先生，東北大学病院総合外科の戸子台和哲先生の３人の先生にご講演いただきました。

君和田先生は，医学生や研修医へのメッセージとして，ご自身の研修時代・大学院生時代・留学時代をふりかえり，「この仕事が好きだ」と思えることを選択する重要性をお話しされました。また，専門医取得前は肉体的には辛いけど精神的負担は重くない，専門医取得後は肉体的負担は軽減するけれど精神的負担が重い，といった肉体面と精神面での大変さの対比は，とても納得できました。菊地先生は，ご自身が精神科に入局した当時，産休取得の可否を教授に尋ねたエピソードを紹介され，当時と現在の子育てと仕事の両立をとりまく環境の変化を話されました。ご自身も外来医長として第一戦で

君和田友美先生

活躍されている中，同様に耳鼻咽喉科で活躍されているご主人との協力体制は理想的だと思いました。戸子台先生は，ご自身がスウェーデンに留学したいきさつ，実際の留学，そして帰国後の現在も，留学先での研究内容を活かしたご研究を継続されている様子を紹介されました。北欧では，男性の認識・意識が男女共同参画を成功させているのであって，サービスが行き届いているからではない，というコメントが大変印象的でした。

菊地紗耶先生

戸子台和哲先生

その後，参加した医学生や研修医からの感想を話してもらうなかで，多数の質問が出ました。「妊娠するまでにしておくべきことは」とか，今年度参加が多かった男子医学生からも「留学するにはどういうステップを踏んだらいいのか」など，かなり具体的な質問も出ました。田畑先生，シンポジストの先生方の他，参加してくださっていた産婦人科の先生から生物学的（！？）な視点からのアドバイスも得て，医学生や研修医はみな満足そうでした。

最後に，センター長である髙橋克子先生から，7月27日（土）に開催される日本医師会第15回男女共同参画フォーラムでも，本セミナーでの話題が関連していることを紹介し，閉会となりました。

男女関係なく，世代や学年，診療科を越えて，お互いの悩みや迷いに対し，お互いの体験や経験を踏まえたコメントを話し合えるセミナーとなったように思います。参加してくださった皆様に感謝申し上げます。

セミナー風景